

早稲田大学 基幹/創造/先進理工学部 物理 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	120分(志望学部・学系・学科により、物理・化学・生物から2科目選択)
特徴・その他	昨年より易化。分量は昨年より減少。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	正方形コイルに生じる誘導起電力とコイルの運動	前半は直線電流の作る磁場内で正方形コイルを運動させたときの誘導電流についての問題。空間中での磁場の向きと速度に対する直交成分の挙動がつかめれば解ける問題。後半は磁束密度に勾配が与えられている中での正方形コイルの運動による誘導電流を求める問題。取りこぼしがあっても8割は欲しい。	標準
〔Ⅱ〕	2物体の衝突の問題と鉛直平面内での円運動など	たんと解ける問題である。ただ、与えられた物理量で答えを組み合わせるのに少しは手間取ったかもしれない。これも8割は取りたい。	標準
〔Ⅲ〕	気体の熱力学の問題と単振動	前半は与えられた物理量で答えるのに迷った受験者がいたかもしれない。後半は、断熱材で包んだことで、うっかりポアソンの比熱比を持ち出した受験生はいなかっただろうか。外部からの熱の影響を受けないようにして、内部ヒーターで熱を加える過程の問題である。円板についてのつり合い式を立てれば容易である。ここも8割は取りたい。	標準

〔総合コメント〕

数年前までの異常な難易度がうそのようである。ただ、個々の入試問題は周期的に難易度が変化するので、今年が易問の底を打った感がある。これよりは易しくなることはないだろう。